

囚人のジレンマ

<http://www.independent.co.jp/news/newsf.php>

歯科関連ニュース：デンタルタイムス 21 速報によれば、私立歯科大学協会が文科省に意見書を提出した。(以下引用)

4月21日、日本私立歯科大学協会（中原泉会長）は、1月30日付の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の第1次報告」や2月4日開催の全国歯科大学学長・歯学部長・附属病院長会議の内容（デンタルタイムス 21/2月5日号参照）に鑑み、「歯科医師養成に対する理念と展望が不十分である」として『意見書』をまとめたことを明らかにした。尚、同意見書は3月11日に文部科学省高等教育局医学教育課長に手渡されている。

意見書では、私立歯科大学・歯学部が果たしてきた役割、平成10年10月26日付大学審議会答申等に触れた上で、要旨以下のとおり考え方を示した。

■6年間の教育課程において培われた優れた人間性・高度の技能及び能力を備えた歯科医師が、その力を十分に発揮できる国民歯科医療システムの再構築こそが国としての最も重要な施策である。

■この施策実施こそが歯科医師としての職業魅力の向上に資することが明白であるにもかかわらず、これらについては何ら付言せず、歯科医師過剰による職業魅力の低下に言及することは、まさに問題のすり替えであり、本末転倒であると断定せざるを得ない。

■歯科医師過剰による職業魅力の低下が、事実だとするならば、行政改革の最中、膨大な税金を投入している国立大学法人歯学部こそ、合理化・定員削減・統廃合・大学院特化等を喫緊の課題として捉えるべきであり、早急に実施するべき。

(引用おわり)

随分、身勝手な主張である。歯科医師過剰の主因が自らにある（現在の歯科医師の約75%は私立歯科大学・歯学部出身者）のに、国が全て悪いという論調に賛成できるひとは、歯科医師にさえほとんどいないだろう。

「国民歯科医療システムの再構築こそが国としての最も重要な施策」といつているが、

「歯学系では、テクノクラートと呼べる人材は少ない。それは、歯科医師養成機関である歯学部が単に臨床歯科医師養成という教育方針であり、前述の医学系のように幅広い人材育成体制を構築してこなか

ったことに原因があるとされている。医科が学閥や医師会の力により政治的な働きかけに長けていたのに対し、歯科ではほとんどが個人開業医であり、こうした分野への進出が盛んではなかったことによる。」（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%82%AF%E3%83%8E%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%88>

国の施策を考える人間を養成するのも、歯学部役割のひとつなのである。

・優れた人間性・高度の技能及び能力を備えた歯科医師を6年間の教育課程において培うことが、国民歯科医療システムの再構築に最も重要な施策である。

・この施策実施こそが歯科医師としての職業魅力の向上に資することが明白であるにもかかわらず、これらについては何ら付言せず、国の施策による職業魅力の低下にだけ言及することは、まさに問題のすり替えであり、本末転倒であると断定せざるを得ない。

・歯科医師過剰による職業魅力の低下が、事実だとするならば、歯科大学・大学歯学部は、合理化・定員削減・統廃合・大学院特化等を喫緊の課題として捉えるべきであり、早急を実施するべき。

このように書き換えれば、世間の理解を少しは得られるかもしれない。

「優れた人間性・高度の技能及び能力を備えた歯科医師を6年間の教育課程において培うことが、国民歯科医療システムの再構築に最も重要な施策である。」

「6年間の教育課程において培われた優れた人間性・高度の技能及び能力を備えた歯科医師が、その力を十分に発揮できる国民歯科医療システムの再構築こそが国としての最も重要な施策である。」

卵が先か、鶏が先か。いずれにせよ、現状は「国民歯科医療システムの再構築」からは程遠い。

さて、そうはいつでも歯科大学・大学歯学部の合理化・定員削減・統廃合は簡単ではない。独立した学校法人である私立歯科大学を強制的に統廃合することは、現行のシステムでは国（厚労省・文科省とも）にはできない。歯科医師過剰対して、国ができることは国家試験での合格者を減らすことだけである。事実、近年は、厚労省が国家試験の合格率を下げている。大量の国試浪人・臨床に役立たない奇問

等、弊害も指摘されていて、ベストの策とは言い難い。また、国家試験の合格率が低い大学ほど、定員充足率が低い傾向にあり、それらの大学の経営をより難しくしている。

現状のまま、私立歯科大学が多量の歯科医師を産出し続けることが、私立歯科大学の経営を苦しくすることになっているのであるが、私立歯科大学が自ら統廃合する気配はない。

個々の最適な選択が全体として最適な選択とはならない状況を「囚人のジレンマ」という。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9A%E4%BA%BA%E3%81%AE%E3%82%B8%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%83%9E>

私立歯科大学はまさにこのジレンマに嵌っている。自分の大学だけは生き残ろうとすることが、共倒れを誘引しているのである。このジレンマから脱するには、「協調」しかない。このまま、チキンレースを続けていても誰も勝者にはなれない。私立歯科大学が自ら統廃合するしか道はないように思われる。

歯科の世界では、同窓会（校友会）が力を持っていると言われている。現在、歯科医師になっている者が、国民のため、歯科医療のためを思うなら、自らの出身校に「協調」を呼びかけることはできないのだろうか。歯科医師会のポストの取り合いよりもよっぽど、自分達のためにもなるはずである。（誰ですか、「そんなことをしたら子供が歯医者になれない」というひとは。）

2009/04/25

SATO